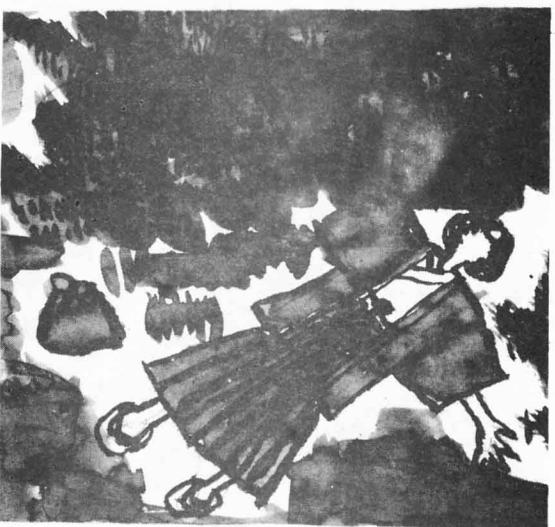


そうになりました。そして、いつしかよい
がまわつてそこでねてしましました。



つぎの朝、目をさますと、そこは庵太郎
の家ではなく、妙見山のかさ松の下の芝原
でした。長兵衛があわてて起きあがると、
そばにふろしきつつみが一つおかれたり
あけてみると、お祝といいたのし紙の下に
りっぱなたんものが二たんはいっていまし
た。

長兵衛は、これを持ってかえり、あまり

にりっぱなたんものなので、家で使うにはもつたないので、取りかえてもらおうと
ある店にいくと、「二・三日前、一人の上品なおくがたさまがみえられ、祝儀の使い
ものにと、この店の中でさいごくじょうのたんものを一たんも持つていかれたが、たし